

しらおい環境セミナー・パネル展



11月30に白老町コミュニティセンターで白老町環境町民会議と白老町主催でしらおい環境セミナーが開催されました。

セミナーでは講師の早稲田宏一氏（特定非営利活動法EnVision環境保全事務所研究員）による「ヒグマの生態とつき合い方」の講演が行われ、町民ら55人が参加。「ヒグマの生態」「ヒグマと人の関わり」「ヒグマとの事故を防ぐには」の3項目について詳しく説明され、「“恐れる”といったときにいろんな恐れるがあります。恐怖による恐れるは、相手を何も知らないことによる恐

さ。相手のことをしっかり知った上で、大きな力を持った自然の中で生きている動物に対する怖さもあり、畏（おそ）れるは敬うという気持ちを持ちながら正しく畏れていく、そういう付き合い方が必要」などと話していました。

また、1階ロビーではパネル展が開催され、1年間の各団体の活動が10枚のパネルで発表されていました。環境セミナー・パネル展ともに今回で15回目の開催です。



虎杖小で漁協講習会

虎杖小学校（関東英敏校長）は11月29日、いぶり中央漁協の職員を招いた講習会を行い、水揚げされても市場などに出回らない低利用魚・未利用魚について学びました。

講習会には5、6年生7人が出席。講師の同漁協の恵良剛志参事らが町内の漁業の現状やカスベなどの未利用魚について説明しました。子どもたちからは「未利用魚に関して、私たちができることは」「未利用魚はおいしいですか」などの質問が出されていました。

同校では、高学年の総合的な学習の時間でフードロスに対する学習を進めていて、小学生の視点でまとめたリーフレットも作製しています。



小学生向け認知症サポーター養成講座

萩野小

萩野小学校（山田耕一校長）で12月3日、社会福祉法人優和会の常務理事管理者の池野大介氏による小学生向け認知症サポーター養成講座が行われました。

養成講座には5年生18人が参加。池野氏は「認知症は特別なことではありません。長生きした証拠。少しの手助けで何でもできる。認知症を正しく知ることが大切」などと話していました。最後に講座を聞いた子どもたち全員にサポーターの証明書が配られ、松田虹心さんは「きょう学んだことを生かして、認知症の人に優しく接しようと思いました」とお礼の言葉を述べました。

